

中日本自動車短期大学における日本語弁論大会 —2010年から2022年までの軌跡—

林 文明

は じ め に

留学生センターは留学生の学習生活支援、地域交流等の様々な活動を行い、日本語能力の向上にも取り組んできた。その一環として2010年より毎年日本語弁論大会を開催し、今年度で第13回を迎えた。本稿ではその記録を報告すると共に、総括として開催の意義を述べたいと思う。

発表を行った学生の出身地は中国、ベトナム、スリランカ、ネパール、韓国、タイ、マレーシア、バングラデシュ、インド、インドネシア、フィリピン、台湾の12の国と地域に及び、発表した人数は延べ83名になった。日本人学生や教職員にとっては留学生の想いを聞き国際理解を深める場となっている。また毎年開催されている岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会への参加も促進している。

発表した留学生の所属は、自動車工学科、モータースポーツエンジニアリング学科、国際自動車工学科（既に廃止）そして留学生別科である。以下、自動車工学科を A 科、モータースポーツエンジニアリング学科を M 科、国際自動車工学科を G 科、留学生別科を J 科と表す。

大 会 の 軌 跡

第 1 回日本語弁論大会

2010年7月16日16時45分より122教室において開催した。テーマは自由で、一人の発表時間は5分、原稿は800字から1200字程度とした。審査基準は、①時間・分量 ②表現力 ③独創性 ④明確さ ⑤日本語の正確さ ⑥質疑応答 の6項目で、審査員3名が各5点満点で評価し、その総合点で審査した。審査員は委員長を山田弘幸学長として、吉田立国際自動車工学科学科長、長谷川達也学生部長の3名に務めていただいた。大会準備は6月にポスターを掲示し、7月2日を申し込み締め切り、7月9日を原稿締め切りとして発表者を募集した。そしてネパール、中国、台湾の三つの国と地域から7名の留学生が発表し、最優秀賞1名と優秀賞1名、特別賞2名の表彰を行った。発表した留学生の所属はG科6名とA科1名であった。厳正な審査の結果、最優秀賞は「日本の生活」を発表した劉子瑜さん（写真1）、優秀賞は「日本の印象」を発表した範魯生さん、特別賞は「ホームステイの味」を発表した娜迪娅那吉米丁さんと「幼い頃の記憶と目標」を発表したアディカリアソクチャンドラさんが受賞した。大会は学生や教職員約30名が

聴講した（写真2）。日本や人生について語る留学生の視点は、日本人にとって新鮮で意義深いものであった。また大会終了後に留学生センターで懇親会も行った。第10回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会には本学から4名が発表した。



写真1



写真2

第1回発表者とそのテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
G	ネパール	ADHIKARI ASHOK CHANDRA アディカリ アソク チャンドラ	幼い頃の記憶と目標
G	中国	王 梓豊 オウ シホウ	私の鬼婆
G	中国	王 琛 オウ チン	理想と目標
G	台湾	施 維智 シ イチ	自分の夢
A	中国	娜迪娅 那吉米丁 ナディア ナジミディン	ホームステイの味
G	中国	範 魯生 ハン ロショウ	日本の印象
G	中国	劉 子瑜 リュウ シュ	日本の生活

第2回日本語弁論大会

2011年7月15日16時45分より開催した。第2回は規模を拡大し大教室の223教室で行った。第1回は学内教員だけで審査を行ったが、今回は地元の坂祝町から北村泰生教育長に副審査委員長としてご参加いただき、山田審査委員長以下4名の審査員で審査を行った。北村教育長には審査後の講評もしていただいた。また坂祝町内にもポスターを配布し町民の聴講を呼び掛けた。発表のテーマは自由で、審査基準は前回の6項目から、①時間 ②表現 ③内容 ④日本語 ⑤質疑応答の5項目にまとめた。5月31日を申し込み締め切り、一次原稿締め切りを6月14日、二次締め切り6月28日として募集し、ネパール、中国、マレーシア、ベトナムの4か国から5名の留学生が発表した。発表した留学生の所属はA科2名、G科1名、J科2名であった。厳正な審査の

結果、最優秀賞は「嵐」を発表したティン ゴック チャムさん（写真3）、優秀賞は「感謝」を発表した周 夢婕さん、そして特別賞は「和食」を発表した娜迪娅 那吉米丁さんが受賞した。最優秀賞と優秀賞はともにJ科の学生が受賞した。また娜迪娅 那吉米丁さんは、昨年に続いて2回目の挑戦と2回目の受賞であった。そして弁論後の審査講評を坂祝町北村教育長にお願いした。また発表後の審査時間に留学生の活動写真を鑑賞した。聴講者は41名で前回は大きく上回り、地域からも6名が聴講に参加してくださった（写真4）。大会終了後、留学生センターで懇親会を行い、日本人学生や地域の方々も参加し交流を深めた。そして第11回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に本学から4名が発表し、1名が4位入賞を果たした。



写真3



写真4

第2回発表者とそのテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
G	ネパール	ADHIKARI ASHOK CHANDRA アデカリ アソク チャンドラ	不思議な夢
J	中国	周 夢婕 シュウ ムショウ	感謝
A	マレーシア	ASYKAL ZAINUDIN アシカル ザイヌドイン	音楽への感謝
J	ベトナム	THANH NGOC TRAM ティン ゴック チャム	嵐
A	中国	娜迪娅 那吉米丁 ナディア ナジミディン	和食

第3回日本語弁論大会

2012年7月20日17時より223教室において開催した。発表のテーマは自由で、発表時間や審査基準等も前回同様に実施した。審査は坂祝町の南山宗之町長に副審査委員長としてご参加いただき、山田審査委員長以下4名の審査員で行った。南山町長には審査講評もしていただいた。発表はネパール、ベトナム、中国の3か国から6名の留学生が行った。所属はA科2名、G科1名、J科3名であった。厳正な審査の結果、最優秀賞は「キャンパスライフの三つの楽しみ」を発表

した張 艶さん（写真5）、優秀賞は「公共言葉 ジェスチャー」を発表した徐 陽さん、特別賞は「自分の最大の敵は自分」を発表したチャン ヴィエン アインさんが受賞した。大会終了後、懇親会を留学生センターで行った。大会の聴講者は42名で、地域から5名が聴講に来てくださった（写真6）。そして第12回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に本学から3名が発表し、1名が審査員特別賞を受賞した。



写真5



写真6

第3回発表者とテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
G	ネパール	ADHIKARI ASHOK CHANDRA アデカリ アソク チャンドラ	不思議をこえて
J	ベトナム	Tran Viet Anh チャン ヴィエン アイン	自分の最大の敵は自分
J	ベトナム	Le Cong Dai レー コン ダイ	日本の商売
J	ベトナム	Nguyen Thanh Long グエン タン ロン	ベトナムの家族の食事の伝統
A	中国	張 艶 チョウ エン	キャンパスライフの三つの楽しみ
A	中国	徐 陽 ジョ ヨウ	公共言葉 ジェスチャー

第4回日本語弁論大会

2013年7月19日17時より223教室において開催し、過去最多の9名が発表した。国別ではネパール3名、中国3名、ベトナム2名、マレーシア1名の4カ国の学生で、所属はA科3名、G科6名であった。第1回から第3回までテーマは自由としていたが、今回はテーマを「日本に来て感じたこと」とした。また今回は留学生会から奨励賞が贈られることになった。発表者は6月7日を申し込み締め切り、6月21日を原稿締め切りとして募集した。地域では坂祝町広報誌に案内を掲載して頂き、さらに坂祝町にある公共施設等に案内ポスターを貼って頂き、地域の方々に告

知して頂いた。審査は坂祝町の南山宗之町長に副審査委員長としてご参加いただき、山田審査委員長以下4名の審査員で行った。南山町長には審査講評もしていただいた。厳正な審査の結果、最優秀賞は「アニメは日本を救う」を発表した董 曉晨さん（写真7）、優秀賞は「日本でみつけた私の敵」を発表したグエン タン ロンさん、特別賞（町長賞）は「日本にきてビックリしたこと」を発表したグエン カット ミンさん、奨励賞（留学生会）は「やりたいことが見つかった！」を発表した徐 陽さんが受賞した。地域からも多数参加があり、約40名が聴講した（写真8）。大会終了後、懇親会を留学生センターで行った。毎年開催されていた岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会は開催されなかった。



写真7



写真8

第4回発表者とテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
G	ネパール	RAM KRISHNA BASNET ラム クリシュナ バスネット	日本人の優しさ
G	マレーシア	AMEER BIN MAHMAD ZAHRI アミル ビン マハド	日本で成長したこと
G	ベトナム	NGUYEN THANH LONG グエン タン ロン	日本でみつけた私の敵
G	ネパール	THAKUR ASHOK CHANDRA タクル アショク チャンドラ	日本人の習慣
A	中国	岑 斯秋 シン シシュウ	アルバイトが自分を変えた
G	ネパール	GURUNG ATIT グルン アティット	がんばること
A	中国	徐 陽 ジョ ヨウ	やりたいことが見つかった！
G	ベトナム	NGUYEN CAT MINH グエン カット ミン	日本にきてビックリしたこと
A	中国	董 曉晨 トウ ギョウシン	アニメは日本を救う

第5回日本語弁論大会

2014年7月9日16時50分より223教室において開催した。今回はテーマを「留学生活で学んだこと」と「母国の紹介」の二つから選択できるようにした。発表時間は6分、字数は1400字以内とし、5月30日を申し込み締め切り、6月13日を原稿締め切りとして募集した。発表は中国とタイの2か国から5名が行った。所属はA科4名、G科1名であった。審査は坂祝町の南山宗之町長に副審査委員長としてご参加いただき、山田審査委員長以下4名の審査員で行った。南山町長には審査講評もしていただいた。厳正な審査の結果、最優秀賞は「5分前行動は心の余裕」を発表した徐 凌超さん(写真9)、優秀賞は「中国の伝統的な行事」を発表した彭 瓊さん、特別賞は「食べ物と食事の習慣」を発表した蔡 俊傑さんが受賞した。テーマが選択可能になったことで発表内容も多様になり、日本人が初めて知る内容も多く、さらに充実した大会となった。44名が聴講し(写真10)、大会終了後は、留学生センターにおいて懇親会を行った。そして第13回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に本学から3名が発表し、1名が優秀賞を受賞した。



写真9



写真10

第5回発表者とテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
A	中国	蔡 俊傑 サイ シュンケツ	食べ物と食事の習慣
A	中国	董 曉晨 トウ ギョウシン	私が思う住みやすいところ
G	タイ	PONGKAMONTECHAKASI KOMPARNITCH テチャカシー コンパーニット ポンカモン	ふるさとタイのお祭り
A	中国	彭 瓊 ホウ ケイ	中国の伝統的な行事
A	中国	徐 凌超 ジョ リョウチョウ	5分前行動は心の余裕

第6回日本語弁論大会

2015年7月17日16時50分より223教室において開催した。テーマ等開催要項は第5回同様であ

る。発表はマレーシア、中国、ベトナム、ネパール、タイの5カ国から8名が行った。所属はA科5名、G科2名、M科1名で留学生の少ないM科から初めての参加であった。審査は坂祝町の南山宗之町長に副審査委員長としてご参加いただき、山田審査委員長以下3名の審査員で行った。南山町長には審査講評もしていただいた。厳正な審査の結果、最優秀賞は「日本の若者について」を発表したズオン ズイ ニヤットさん（写真11）、優秀賞は「私の国、私の誇り」を発表したプラジャパティ ディパックさんと、「未来を決める新しい車」を発表した鐘 昌宏さんが受賞した。37名が聴講し（写真12）、大会終了後は、留学生センターにおいて懇親会を行った。そして第14回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に本学から1名が発表し優秀賞を受賞した。学内の弁論大会を開催した翌年以降、本学の学生は毎年受賞している。



写真11



写真12

第6回発表者とテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
A	マレーシア	TANWOI GIAP タンウォイ ギャップ	多民族の国、マレーシア
A	中国	王 凱 オウ ガイ	日本で学んだ運転マナー
A	ベトナム	Duong Duy Nhat ズオン ズイ ニヤット	日本の若者について
G	中国	張 奕庵 チョウ ヤクキ	僕が知っている上海
G	ネパール	PRAJAPATI DIPAK プラジャパティ ディパック	私の国、私の誇り
A	中国	江 業鵬 コウ ギョウホウ	日本のサービスの印象
M	タイ	KAEW ON TAWEEERATCH カエ オン タウイラット	福岡から始まった留学生生活
A	中国	鐘 昌宏 ショウ ショウコウ	未来を決める新しい車

第7回日本語弁論大会

2016年7月12日16時50分より223教室において開催した。開催要項、審査基準等は第5回を踏襲している。発表はスリランカ、中国、韓国、インドネシアから7名が行った（写真13）。所属はA科6名、J科1名であった。審査は坂祝町の三品智裕副町長に副審査委員長としてご参加いただき、山田審査委員長以下3名の審査員で行った。三品副町長には審査講評もしていただいた。厳正な審査の結果、最優秀賞は「ボロボデュール寺院」を発表したアユ フィルダウシ ヌズラさん（写真14）、優秀賞は「留学生活で感じたこと」を発表した王 瑋さん、町長賞は「似ているようで似ていない日韓」を発表した沈 太賢さんが受賞した。45名が聴講し、大会終了後は、留学生センターで懇親会を行った。第15回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に本学から2名が発表し、2名ともに優秀賞を受賞した。2名の受賞は初めてであった。



写真13



写真14

第7回発表者とテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
A	スリランカ	MUNASINHA VITHANAGE ASINTHA DEELU DARSHANA ムナシンハ ビターナゲ アシント デイル ダルシャ	日本のあいさつを持って帰りたい
A	中国	金 磊 キン レイ	未来へのあこがれ
A	スリランカ	BANGAMU HEWA APPU ARACHCHIGE ARUNALAKSHITH GUNARATHNE バンガム ヘワ アップ アラッチゲ アルナラクシタ グナラタネ	VEGA 電気自動車
A	韓国	沈 太賢 シム テヒョン	似ているようで似ていない日韓
A	中国	王 瑋 オウ イ	留学生活で感じたこと
A	インドネシア	AYU FIRDAUSI NUZULA アユ フィルダウシ ヌズラ	ボロボデュール寺院
A	韓国	李 駿衡 イ ジュンヒョン	古い物に対する 日韓の考え方の違い

第8回日本語弁論大会

2017年7月12日3限目（13時20分～14時50分）に223教室にて開催した。今年度は初めて授業時間帯に実施した。第1回から第7回までは授業時間帯を避け、地域の方々の参加を考慮して放課後に開催してきた。しかし学バスでの通学者が多いため放課後は学生の聴講は難しく、授業の少ない時間帯を選んで水曜午後3時間目に開催した。その結果50名の学生が聴講し、全体で73名が聴講した。発表は中国とネパールの7名が行った（写真15）。所属は全員A科であった。審査は坂祝町の三品智裕副町長に副審査委員長としてご参加いただき、山田審査委員長以下3名の審査員で行った。三品副町長には審査講評もしていただいた。厳正な審査の結果、最優秀賞は「初めての留学生活―留学生として感じた事」を発表した具 賢書さん（写真16）、優秀賞は「日本の一年間の生活」を発表した王 瑋さんと「ラーメンとチャジャン麺」を発表した金允洙さん、坂祝町長賞は「私の目に映った日本」を発表したネウパネ ゴピ クリスナさんが受賞した。もともと優秀賞は1名の予定であったが、優れた発表が多く、優秀賞が2名に贈られることとなった。優秀賞の1人の王 瑋さんは昨年が続いて2回目の参加で2回目の受賞であった。授業時間帯の開催であり懇親会は行わなかった。第16回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に本学から2名が発表し、1名が優秀賞を受賞した。

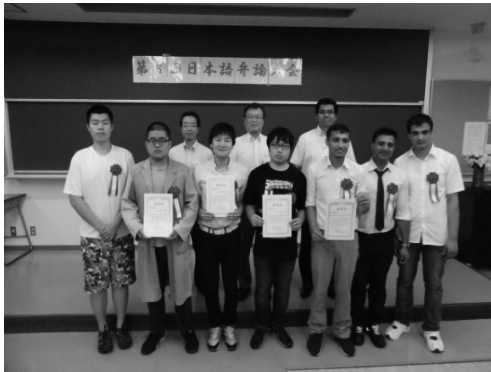


写真15



写真16

第8回発表者とテーマは次表のとおりである

所属	出身地	氏 名	テーマ
A	中国	林 源源 リン ゲンゲン	日本留学で学んだこと
A	ネパール	SHARMA OMKAR RAJ サルマ オマカラ ラザ	私の国ネパール
A	韓国	金 允洙 キム ユンス	ラーメンとチャジャン麺
A	ネパール	NEUPANE GOPI KRISHNA ネウパネ ゴピ クリスナ	私の目に映った日本
A	中国	王 瑋 オウ イ	日本の一年間の生活
A	ネパール	BHANDARI RAJENDRA バンドリ ラゼンドラ	見どころいっぱいの国ネパール
A	韓国	具 賢書 グ ヒョンソ	初めての留学生生活 一留学生として感じた事

第9回日本語弁論大会

2018年7月25日3限目に223教室にて開催した。発表は中国、スリランカ、バングラデシュ、ネパール、インドネシアの5か国から6名が行った（写真17）。所属は全員 A 科であった。審査は坂祝町の高橋正郎教育長に副審査委員長としてご参加いただき、山田審査委員長以下3名の審査員で行った。高橋教育長には審査講評もしていただいた。厳正な審査の結果、最優秀賞は「食品ロスを減らそう」を発表したムハンマド ハサヌディンさん（写真18）、優秀賞は「自分に与えられた役を果たすことの大切さ」を発表した俞 万松さん、坂祝町長賞は「日本で学んだこと」を発表したラマ パサンさんが受賞した。大会は55名が聴講した。また第17回岐阜県内外国人留學生日本語弁論大会には本学から4名が発表し、1名が最優秀賞に輝いた。7年連続で本学学生が賞を受賞しているが、最優秀賞の受賞は初めてであった。



写真17



写真18

第9回発表者とテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
A	中国	彭 庭海 ホウ テイカイ	故郷の発展—シェア自転車
A	スリランカ	SENARATHNA GAMMUDALIGE SIDATH BANDARA シダス バンダラ	魅力的なスリランカ
A	バングラデシュ	DEY SAJAL デ サザル	日本人は冷たい？
A	中国	俞 万松 ユ マンショウ	自分に与えられた役を果たすことの大切さ
A	ネパール	LAMA PASANG ラマ パサン	日本で学んだこと
A	インドネシア	MUHAMMAD HASAHUDDIN ムハンマド ハサヌディン	食品ロスを減らそう

第10回日本語弁論大会

2019年7月24日3限目に223教室にて開催した。発表はネパール、フィリピン、バングラデシュの3カ国から6名が行った（写真19）。所属は全員A科であった。審査は坂祝町の柴山佳也町長に副審査委員長としてご参加いただき、山田審査委員長以下3名の審査員で行った。柴山町長には審査講評もしていただいた。厳正な審査の結果、最優秀賞は「私の母国ネパール」を発表したシャルマ プリティマンさん（写真20）、優秀賞は「観光大国ネパールの魅力」を発表したカandel スマンさん、坂祝町長賞は「石の上にも三年」を発表したエストラダ マリー クリセルゴンザレスさんが受賞した。さらに今回はホンダカーズ三重東様から1名の学生に就職応援賞が贈られた。これは本学卒業生の留学生在が頑張っていること、前回の発表に感動したことから提案して頂いた。受賞したのは「頑張ること」を発表したアドナン ナキブさんであった。今回は非常に多くの方が聴講された。群馬県議会視察団16名、中国の友好提携校である上海交通大学技術学院の銭副校長、坂祝町教育委員会と坂祝町役場から8名が来校され聴講された。そして本学のA科1年の学生120名もゼミの授業を使い聴講した。また第18回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会には本学から3名が発表し、2名が優秀賞を受賞した。



写真19



写真20

第10回発表者とテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
A	ネパール	ADHIKARI ABINAS アディカリ アビナス	めっちゃすごいことや めっちゃ変なこと —いつまでも抱いておきたい
A	ネパール	SHARMA PRITIMAN シャルマ プリティマン	私の母国ネパール
A	フィリピン	ESTRADA MARIE KRISSEL GONZALES エストラダ マリー クリセル ゴンザレス	石の上にも三年
A	ネパール	CHHANTYAL BISHAL チャンチャル ビザル	86400秒のプレゼント
A	バングラデシュ	ADNAN NAKIB アドナン ナキブ	頑張ること
A	ネパール	KANDEL SUMAN カンデル スマン	観光大国ネパールの魅力

第11回日本語弁論大会

2020年11月4日4限目（15時10分～16時40分）に本学133教室にて開催した。コロナ禍のため春学期の開催は見送ったが、慎重に検討した結果、秋学期に厳重な感染予防策を講じたうえで開催する運びとなった。従来の大教室から小教室に会場を移し、会場には発表者と審査員のみが入場した。そして大会のスピーチをライブ配信して、各教室でA科1年生、M科2年生が視聴した。また発表者の出身日本語学校や発表者の親族などにも配信し、発表を視聴していただいた。毎年坂祝町に副審査委員長をお願いしていたが、今回は依頼を控え、審査員は委員長を山田弘幸学長として、清水啓司自動車工学科学科長、長谷川達也学生部長の3名に務めていただいた。発表は中国、ネパール、バングラデシュ、ベトナムの4か国から6名が行った（写真21）。所属はA科5名、M科1名であった。厳正な審査の結果、最優秀賞は「自分で人生の価値を見つけよう」を発表した迪力亜爾 迪力夏提さん（写真22）、優秀賞は「日本人の心遣い —3つのエピソード—」を発表した王 璐琦さんと「日本に来て学んだこと」を発表したボンザン ビームさんが受賞した。また第19回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会は開催されたが、コロナ禍であった為、

発表者は4名で、そのうち3名が本学留学生であった為、最優秀賞、優秀賞ともに受賞した。



写真21



写真22

第11回発表者とテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
A	中国	王 璐琦 オウ ルキー	日本人の心遣い ー3つのエピソードー
A	ネパール	BOMJAN BHIM ボンザン ビーム	日本に来て学んだこと
A	バングラデシュ	MIAH MOHAMMAD SHAHAZAMAN ミミア モハマド シャハジャマン	バングラデシュへようこそ
M	中国	迪力亚尔 迪力夏提 ディリヤール ディリシャティ	自分で人生の価値を見つけよう
A	ネパール	DHUNGEL SUPRAVAT ドウンゲル スプラバット	日本に来て学んだ事
A	ベトナム	LUONG VAN DAN ルオン バンダン	毎日の暮らしは美しい

第12回日本語弁論大会

2021年7月23日3限目に223教室にて開催した。発表はネパールの5名が行った(写真23)。今回は発表者が一カ国の留学生のみとなった。所属は全員A科であった。コロナ禍が続く中で今回は会場を大教室に戻したが、前回同様コロナ感染防止対策を講じ、会場には発表者、審査委員等約20名だけが入室した。発表は各教室にライブ配信して学生が視聴した。また前回は断念したが、今回は副審査委員長として坂祝町から柴山佳也町長にご参加いただき、山田審査委員長以下3名の審査員で行った。柴山町長には審査講評もしていただいた。厳正な審査の結果、最優秀賞は「留学生活から学んだ、相手を思いやることの大切さ」を発表したピタコテ アンビカさん(写真24)、優秀賞は「異文化との触れ合いと人の心の温かさ」を発表したシュレスタ パラシュラムさん、坂祝町長賞は「“あいさつ”と“掃除”で考えるネパールの発展」を発表したグルンビカスさんが受賞した。第20回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に本学から1名が発表し、

優秀賞を受賞した。



写真23



写真24

第12回発表者とテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
A	ネパール	SHRESTHA PARSHURAM シュレスタ パラシュラム	異文化との触れ合いと 人の心の温かさ
A	ネパール	GURUNG BIKASH グルン ビカス	“あいさつ”と“掃除”で考える ネパールの発展
A	ネパール	PARIYAR DIPAK パリヤル ディパク	私の挑戦
A	ネパール	PITHAKOTE AMBIKA ピタコテ アンビカ	留学生活から学んだ、 相手を思いやることの大切さ
A	ネパール	BHATTARAI ROSHAN バットライ ロシャン	時間の大切さ

第13回日本語弁論大会

2022年7月27日3限目に223教室にて開催した。今回はコロナ禍での3回目の開催であった。前回と前々回は、会場には発表者と関係者のみ入場し、学生はライブ配信により各教室で視聴した。しかし今回は万全の感染防止対策を講じて人数を制限し、大教室の後方に1クラスの学生約50名を着席させ聴講してもらった。他のクラスの学生は各教室でライブ配信を視聴した。多数の学生を入場させることはできなかったが、一部の学生だけでも直接聴くことができ、発表者、聴講者ともに充実したものとなった。また今回初めて留学生の発表後に、日本人学生1名にスピーチを行ってもらった。発表者はA科1年2組の佐藤 万弦さんで、内容は留学生との交流を通じて物事の見方が変わり成長したというもので、非常に有意義なスピーチであった。発表は中国、ベトナム、インド、スリランカの4カ国から5名の学生が行った(写真25)。所属は全員A科であった。審査は副審査委員長として坂祝町から三品芳則教育長にご参加いただき、山田審査委員長以下3名の審査員で行った。三品教育長には審査講評もしていただいた。厳正な審査の結果、最優秀賞は「悲しみを強さに変えてあきらめずに生きていこう」を発表したワンニナヤカ ムディ

ヤンセラゲ ウッパラ エランダティ ワンニナヤカさん（写真26）、町長賞は「日本人の本音と建て前」を発表したグエン コック タンさん、優秀賞は「インドの結婚における“宗教とカースト制度”」を発表したルピンダー プリト シングさんであった。第21回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に本学から2名が発表し、1名が優秀賞を受賞した。



写真25



写真26

第13回発表者とテーマは次表のとおりである。

所属	出身地	氏 名	テーマ
A	中国	張 芸 チョウ イ	日本で学んだ環境保護の意識
A	ベトナム	NGUYEN NGOC TAN グエン コック タン	日本人の本音と建て前
A	中国	張 愷泉 チョウ カイセン	日本に来て仏教を通して培った私の人生観
A	インド	RUPINDER PREET SINGH ルピンダー プリト シング	インドの結婚における“宗教とカースト制度”
A	スリランカ	WANNINAYAKA MUDIYANSELAGE UTHPALA ERANDATHI WANNINAYAKA ワンニナヤカ ムディヤンセラゲ ウッパラ エランダティ ワンニナヤカ	悲しみを強さに変えてあきらめずに生きていこう

日本語弁論大会開催の意義

外国人留学生を受け入れる高等教育機関として日本語弁論大会を開催することは珍しいことではないが、本学のような工科系短期大学が13年にわたり継続開催してきたこと自体に深い意義を有する。その13年を振り返り4つの意義があることを指摘したい。第1に参加学生に対する教育上の意義である。参加学生の多くは1年生で入学後間もない時期に弁論大会参加という目標を持つことにより日本語学習に対する意欲を高めている。さらに新たな課題に挑戦して成し遂げ、また自己の弱点を克服し自信を得ることで、主体的な姿勢を築いている。第2に異文化理解の深化である。諸外国の若者の考えを聞き、その国の生の様子を知ることは非常に貴重な機会であり、聴講した学生、教職員、地域の方々も多くのことを学ぶことができた。知識を得るだけでなく自

己の考え方や常識を見直す機会となった。第3に聴く側の学生への教育上の効果である。日本人学生にとっても留学生にとっても、留学生が外国語である日本語でスピーチをする勇気と努力に感銘を受け、視野を広め、異なる意見を聞く姿勢や主体的な姿勢を築くことにつながっている。第4に地域交流、地域貢献の深化である。坂祝町に本学弁論大会の審査員としてご参加いただくとともに、地域の方々に聴講して頂き、異文化理解の場を提供することができた。また留学生は岐阜県内外国人留学生弁論大会や坂祝町青年の集いにも参加し発表してきた。その中で地域や他大学にも本学の姿を知って頂くことができた。地域貢献は大学の果たすべき重要な役割の一つであり、日本語弁論大会はその役割を担っていると言えよう。

お わ り に

13年を振り返り、不十分点はあるながらも非常に意義のある活動を継続してきたと再認識することができた。今後も継続して開催しさらに充実発展させていきたい。開催に当たり審査員を務めていただいた方々、坂祝町役場や地域の方々、本学教職員をはじめとして多くの方々にご協力いただいたことに感謝申し上げます。また開催の継続はこれまでの留学生センタースタッフのご尽力のおかげでもある。とりわけコロナ禍以降は、広報部や担任の先生方のご協力のおかげで安全な開催を継続することができた。ここに改めて感謝の意を表したい。